

絵を通して地域間交流

瑞穂アート



▲コミュニティセンターで会話をしながら絵を描くメンバー

絵を描くことが好きな仲間たちが瑞穂コミュニティセンターに集まり、作品を通じて、さまざまな活動をしている瑞穂アート（藤井肇代表）。瑞穂町内で教室を開いていた瑞穂アート学園の生徒たちを中心に、平成24年から新たに「瑞穂アート」という名称で活動を再開。遠くは上富良野町から通うメンバーなど、現在12人が所属し、毎月2回、



◀三番館の一部を借りて展示された数々の作品



絵画などの作品づくりをしています。「作品は1日で仕上げるものもあれば、何カ月もかけて描くものもあり、お互いに切磋琢磨しながら、絵を完成させていますよ」と集まったメンバーのみなさんは声をそろえます。自分の目で見て感じたものを描く写生会を春と秋に開催したり、他のまちへ行って美術鑑賞するなど、屋外でも活動を展開しています。

「自分たちで絵を描くだけでなく、たくさんの人たちにも作品を見てもらいたい」という思いから、三番館の一部を借りて、今年の

6月から7月にかけて初めて絵画作品展を開催。会場には約200人が来場し、多くの人に活動の集大成を披露しました。

また、上富良野町や美瑛町の団体と合同で展示会を開催するなど、地域を超えた交流活動や、過去には地域ギャラリーとして東小学校で犬や果物などの絵を展示。文化祭をはじめ、半年に1回のペースでハイランドふらのでも展示するなど、活動の幅を広げています。

瑞穂アートでは、油絵やパステル画を中心に作品づくりをしています。最近では基礎勉強として木炭や鉛筆によるデッサンにも取り組んでいます。

「活動は好きなことをしているのが楽しいです。こういった集まりは、情報交換の場にもなっています。おしゃべり半分、お絵かき半分みたいな活動をしているので、興味のある方はぜひ声をかけてください」と話す藤井さん。「今後は他のサークルと合同で展示会巡りができたら」と多くの人のつながりを大切にしながら、楽しいコミュニティの輪を広げていきます。